

〔和漢三才圖會七十六〕湯崎温湯 在牟婁郡鉛山村俗云田邊湯 山上有堂 本尊藥師木像

温泉有四口其湯床似藥師佛像一枚盤也

〔日本書紀二十九〕十四年四月己卯紀伊國司言牟婁湯泉沒而不出也

〔十寸穗の薄四牟婁郡〕温泉 湯崎温泉ノ名 礦まぶノ湯 濱ノ湯 元ノ湯 屋形ノ湯 崎ノ湯 粟

ノ湯 目洗ノ湯

本宮温泉ノ名 湯ノ峯 舊もとノ湯 上ノ湯 河ノ湯

湯崎湯治記曰入湯の度數七日を一回りとす湯治初日惟一度浴すべし次日二度浴第三日ハ三度浴ス四日目ハ晝二浴夜二浴合セテ四度入湯而止第五日目よりは一浴を減晝二度夜一度三浴して可なり六日目ハ晝一度浴夜一度浴兩度而止終ノ七日目は初日の如し唯一度浴是此入湯一回りとする也蓋一回の内度數の増減如此ならざれば湯治の驗なきのみならず大に其人に害あり可慎凡此度を過すときは病にあたり却て養生の妨をなす湯治の日數は幾回すとも宜かるべし但此説は湯崎浦村老の示を述のみ他方温泉湯治の心得は各又別に口授有べし

房子湯崎道の記に礦まぶの湯はあつくして内を發して病を愈す積たかつかへ鬱熱の病によし崎の湯も大方是に同じ湯あつし少しはげし冷一切痔疾腰下の病をなす濱の湯は和らげ諸病にきく幾度入てもものぼせる事なし屋形の湯は積をなをし疝きょうをいやす金瘡に殊によるし愈すことの早をもて終の湯といひならわす初のほどはさまひかへてよしといふ元の湯はぬるけれども是を湯崎の根元とす大病人ゆるく入て養生すれば諸病まつたふ愈ざるはなし別して瘡物に宜しきゆへ瘡の湯といふめり粟の湯はのぼせに吉足をひたせば上氣の病すべてなをる六ところ湯の外は眼病を治する湯あり遠はなれたる荒磯の岩間より細く流れ出る眼を洗へ